

6 快適で利便性に富んだまち

総合基本計画関連ページ		
第5章施策の体系		
6 快適で利便性に富んだまち		232ページ
付属資料		
1 基本計画（第5章）施策の体系	政策指標における現状値	284ページ
基本施策6-① 公共交通網の充実		
46 A バス年間乗客数を増やします		
Aバス乗降客数 97,646人（令和2年度時点）		
【評価対象事業】		
87交通機関対策等事業		交通対策課
47自転車等駐車場の利用率を高めます		
各月平均自転車等駐車場利用率 32.0%（令和2年度時点）		
【評価対象事業】		
88自転車等駐車場管理事務		交通対策課
48東京都シルバーパスの保有者数を増やします		
東京都シルバーパスの保有者数 5,895人（令和2年9月時点）対象外		
基本施策6-② 道路環境の整備		
49事業化された都市計画道路の整備を着実に進めます		
都市計画道路3・4・1号末整備率 64%（令和2年度末時点）		
【評価対象事業】		
89都市計画道路3・4・1号第1期整備事業		建設課
50歩道の延長と幅員の確保により、快適な歩行空間をつくります		
歩道の延長距離 総延長79,763m（令和2年度末時点）		
歩道の総面積 226,847㎡（令和2年度末時点）		
【評価対象事業】		
90道路維持管理事務		管理課
91市道舗装改修等事業		建設課
92管内道路整備事業		管理課
51交差点付近の植樹帯・街路樹を整備し、視界を確保します		
1箇所（延長16.5m、幅1.25m、面積23.10㎡）（令和2年度時点）		
【評価対象事業】		
90道路維持管理事務		管理課
92管内道路整備事業		管理課
基本施策6-③ 深層地下水100%水道水の供給		
52直接飲用率を高めます		
水道水をそのまま飲む市民の割合 72.1%（令和元年時点）		評価対象外
53管路の耐震適合率を高めます		
管路の耐震適合率 56.8%（令和2年度末時点）		評価対象外
基本施策6-④ 下水道の維持管理		
54公共下水道雨水管の重点整備を推進します		
公共下水道雨水管の整備率 46.4%（令和2年度末時点）		評価対象外
54下水道施設老朽化対策を推進します		
下水道施設老朽化対策の整備率 6%（令和2年度末時点）		評価対象外
基本施策6-⑤ 市街地の整備		
55まちなみや景観を美しいと思う市民の割合を増やします		
昭島のまちなみや景観を「美しいと思う」「やや美しいと思う」市民の割合 57.9%（令和元年時点）		
【評価対象事業】		
93都市計画審議会事務		都市計画課
94都市計画推進事業		都市計画課

56	住み続けたいと思う市民の割合を増やします（再掲） 昭島市に「今後とも住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」と思う市民の割合 81.8%（令和元年時点） 【評価対象事業】 93都市計画審議会事務	都市計画課
基本施策6-⑥快適な公園の確保		
57	市民一人当たりの公園面積を増やします 市民一人当たりの公園面積 10.84㎡（令和2年時点） 【評価対象事業】 95公園維持管理事務 96児童遊園維持管理事務	管理課 管理課
基本施策6-⑦住環境の保全		
58	市民の健康で快適な生活を守るため、大気環境、水環境、音環境などについての環境基準を全て達成します 環境基準 大気環境：達成（令和2年度時点） 水環境 ：達成（令和2年度時点） 【評価対象事業】 97公害調査・測定等事務 環境基準 準環境 ：達成（令和2年度時点） 【評価対象事業】 98航空機騒音調査事務	環境課 環境課

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			交通機関対策等事業							事業開廃年度		- 継続				
基本データ	予算科目	款	02	項	01	目	01	細目	009	細々目	01	部	都市整備部	課長	大貫幸人	
		款名	総務費									課	交通対策課	担当	光畑辰弘	
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-① 公共交通網の充実 Aバス年間乗客数を増やします									係	交通対策係	電話	2504		
	根拠法令等										個別計画					
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを									法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)			
事業の概要	事業概要	対象				目的										
	実施内容	鉄道、バス等公共交通機関				公共交通手段の維持・確保、利便性の向上、交通不便地域解消。										
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>								
	直接事業費		千円	83,508	88,544	85,721	98,448									
	財源内訳	国庫支出金	千円													
		都支出金	千円													
		地方債	千円													
		その他特定財源	千円													
		一般財源	千円	83,508	88,544	85,721	98,448									
	一般職員人件費		千円	2,484	4,253	4,253	4,334									
	人工数		人	0.30	0.50	0.50	0.50									
	再任用職員人件費		千円	1,389	1,434	1,434	1,698									
	人工数		人	0.30	0.30	0.30	0.30									
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
	人工数		人													
	総事業費		千円	85,992	92,797	89,974	102,782									
	基本施策の現状値												(時点)	R4実績	R5実績	R6実績
	Aバス乗降客数 97,646人												令和2年度	131,343人	140,473人	163,445人
	事業の評価	実施方法の妥当性		3	各協議会における会議は定期的に開催され、鉄道事業者等への要請活動についても継続的に実施されている。コミュニティバスの運行については運行補助予算額の範囲内にて運行を維持した。											
実施方法の効率性		4	Aバスの運行経費は、コスト、サービス量ともに横ばいである。前年度比2,213千円の増となった。													
達成度（基本施策の実績）		4	令和6年度の利用者数は163,445人で、前年の140,473人と比較すると16.3%の増加となっている。													
DXへの取組		取り組みを推進中			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし									
個別評価		合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持												
		総合評価		Aバスの年間乗客数は前年と比較した場合22,972人（16.3%）の増加となっている。総合基本計画での令和2年の現状値である97,646人に対し、令和6年度実績は163,445人と現状値以上となっている。 また、Aバス（CNG車）車両の故障が多く、令和9年度にはCNGガスステーションが廃止予定のためCNG車2台を市民の利便性向上及び環境負荷の低減を目的としてEVバス及び充電設備導入が今後の課題となっている。												

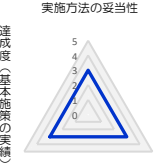
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			自転車等駐車場管理事務							事業開廃年度		- 継続			
基本データ	予算科目	款	02	項	01	目	13	細目	001	細々目	01	部	都市整備部	課長	大貫幸人
		款名	総務費									課	交通対策課	担当	光畑辰弘
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-① 公共交通網の充実 自転車等駐車場の利用率を高めます									係	交通対策係	電話	2504	
	根拠法令等	自転車法、昭島市自転車等の放置防止等に関する条例、昭島市自転車等駐車場条例									個別計画				
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを													
事業の概要	事業概要		対象					目的							
			市民及び駅周辺への乗り入れ自転車 駅周辺を中心とした公共の道路及び自転車駐車場					駅周辺を中心とする道路通行上の支障物（放置自転車等）をなくし交通の安全と防災活動等を確保する。また、自転車等駐車場を適正円滑に管理する。							
実施内容		駅周辺の放置自転車等をなくすために設置された自転車等駐車場の適正円滑な管理。 ①指定管理者による管理運営 ②直営事務（施設修繕、土地借賃貸借事務、使用料収納事務、使用料の還付事務、使用料免除事務） 施設数18箇所、収容総数台11,774台													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算		R6当初予算		R6決算		R7当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	147,049		155,824		154,739		223,001		【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・自転車等駐車場使用料			
	財源内訳	国庫支出金	千円							52,400					
		都支出金	千円							4,600					
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	109,457		109,941		115,377		113,516					
		一般財源	千円	37,592		45,883		39,362		52,485					
	一般職員人件費		千円	8,280		8,506		8,506		8,667					
	人工数		人	1.00		1.00		1.00		1.00					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	155,329		164,330		163,245		231,668					
	基本施策の現状値										(時点)		R4実績	R5実績	R6実績
各月平均自転車等駐車場利用率 32.0%										令和2年度		59.8%	60.4%	60.0%	
事業の評価	実施方法の妥当性		3	指定管理者と協議し、人員配置や再委託業務の見直しを図るなど実施方法を前年度と変更することで経費の削減と利用者サービスの向上に努めた。											
	実施方法の効率性		4	最低賃金改正に伴い管理員等の人件費が増加したため、総事業費は前年と比較し7,690千円の増となった。											
	達成度（基本施策の実績）		4	令和2年の各月平均自転車等駐車場利用率の現状値である32%に対し、令和6年度実績は60.0%と現状値を達している。											
	DXへの取組		取り組みを推進中					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点 11	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
		総合評価	市営の自転車等駐車場よりも駅の近くに民間の時間貸し駐輪場が10箇所オープンしたため市営駐輪場の利用者が民間施設へ移行し利用者が減少している。 また、東中神駅北口及び西側の利用状況が常時飽和状態であり利用できない方からの既存施設の拡幅等の要望が多くなっているため、東中神駅南側第二自転車等駐車場整備をするとともにキャッシュレス決済に対応した精算機を導入した。												

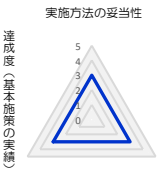
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		都市計画道路3・4・1号第1期整備事業										事業開廃年度		平成6年度 継続						
基本データ	予算科目	款	08	項	03	目	04	細目	002	細々目	01	部	都市整備部	課長	小野瀬 歳紀					
		款名	土木費										課	建設課	担当	小林 正和				
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-② 道路環境の整備 事業化された都市計画道路の整備を着実に進めます										係	都市計画道路担当	電話	内線2572					
	根拠法令等	都市計画法第59条										個別計画								
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを										法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☒ 都補助等あり)						
事業の概要	事業概要	対象					目的													
	実施内容	都市計画道路3・4・1号											都市計画道路の整備により国道、都道などの緊急輸送道路との連携及び市役所周辺を含めた道路ネットワークの向上と、無電柱化路線とすることで、災害時の避難路や救援路の確保を行う							
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算		R6当初予算		R6決算		R7当初予算		備考<特財名称等>								
	直接事業費		千円	532,380		842,800		766,243		784,500										
	財 源 内 訳	国庫支出金	千円			189,000		189,000		262,800										
		都支出金	千円			94,500		94,500		131,400										
		地方債	千円	444,000																
		その他特定財源	千円																	
		一般財源	千円	88,380		559,300		482,743		390,300										
	一般職員人件費		千円	8,280		8,506		21,265		21,668										
	人工数		人	1.00		1.00		2.50		2.50										
	再任用職員人件費		千円																	
	人工数		人																	
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円																	
	人工数		人																	
	総事業費		千円	540,660		851,306		787,508		806,168										
	基本施策の現状値										(時点)					R4実績	R5実績	R6実績		
都市計画道路3・4・1号整備率 64%										令和2年度末		64.0%	64.0%	64.0%						
事業の評価	実施方法の妥当性		3	鉄道の立体交差化は、鉄道事業者と施工協定を締結し協定工事として施工を進める。それ以外は市の発注により計画的に事業を推進している。																
	実施方法の効率性		4	各年度の工事内容が違いため、前年度の工事費との比較が難しい。よってコストは変化なし、サービス量（成果）は事業の進捗があったので増加と判断した。																
	達成度（基本施策の実績）		3	達成度（整備率）は「開通済み区間」としているため、部分的に事業を進めている状態であるが、開通延長に変化がないため、達成度の変化は無しとした。																
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし										
	個別評価	合計点 10	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持																
			総合評価	令和12年度末の開通に向けて事業を進めている状況である。 令和5年からは立体交差部の施工が始まり計画的に事業進捗中である。 今後、資材の価格高騰・調達不良の懸念事項はあるものの、市中央を通る重要な都市計画道路の整備として早期開通を目指し事業を行っていく。																

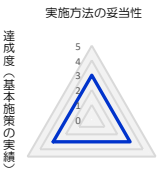
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			道路維持管理事務							事業開廃年度		- 継続			
基本データ	予算科目	款	08	項	02	目	02	細目	001	細々目	01	部	都市整備部	課長	高水 昭利
		款名	土木費									課	管理課	担当	原島 大輔
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-② 道路環境の整備 歩道の延長と幅員の確保により、快適な歩行空間をつくります									係	維持係	電話	541-2222	
	根拠法令等										個別計画				
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを									法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)		
事業の概要	事業概要	対象					目的								
	実施内容	昭島市が管理する1278路線、229キロメートルの道路 街路樹せん定等委託、除草・草刈委託、清掃・点検委託、市道路線等維持補修委託													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	137,285	147,677	152,397	164,242	【その他特定財源】 ・道路使用料 ・拝島駅自由通路維持 管理費負担金 ・公共施設整備等資金 積立基金繰入金							
	財 源 内 訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円												
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	35,000	119,267	128,633	128,422								
		一般財源	千円	102,285	28,410	23,764	35,820								
	一般職員人件費		千円	16,560	17,012	17,012	17,334								
	人工数		人	2.00	2.00	2.00	2.00								
	再任用職員人件費		千円	17,594	18,164	13,384	11,320								
	人工数		人	3.80	3.80	2.80	2.00								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	153,845	164,689	169,409	181,576								
	基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
歩道の延長距離 総延長79,763m							令和2年度	80,022m	80,104m	80,658m					
歩道の総面積 226,847㎡							令和2年度	227,571㎡	228,511㎡	230,656m					
交差点付近の植樹帯・街路樹を整備し、視界を確保します 1箇所(延長16.5m、幅1.25m、面積23.10㎡)							令和2年度末	2箇所 5.1㎡	2箇所 6.0㎡	3箇所 9.0㎡					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	定期的なパトロールによる早期発見早期対応が望ましいが、市民等からの苦情・要望に伴う補修等をはじめ日々の作業に時間を取られているのが現状である。											
	実施方法の効率性		3	直営作業と委託を組み合わせることで効率的な対応を心掛けているが、苦情・要望されている件数に対し、処理が追い付いていないところもある。											
	達成度（基本施策の実績）		3	道路維持補修及び道路清掃、街路樹せん定、除草委託等、限られた予算の中で効率よく円滑に業務を行っているが、市民要望はそれを上回っている。											
	DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 成果拡大に向けて実施方法を見直し) → A 成果拡大に向けて実施方法を見直し											
		総合評価	道路補修や道路清掃などの毎年予算がほぼ同額のため、苦情の対応に苦慮している。市道における迅速な刈込や除草依頼も多いが、繁茂期の対応は気温の上昇により一部委託業者が対応できない事象に加え、直営の作業員の減少と高齢化もある。また委託対応以外の除草箇所も増えてきており、対応が遅れている状況にある。												

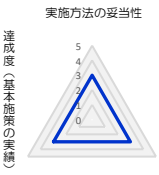
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			市道舗装改修等事業							事業開廃年度		不明 継続			
基本データ	予算科目	款	08	項	02	目	03	細目	002	細々目	02	部	都市整備部	課長	小野瀬 歳紀
		款名	土木費							課	建設	担当	萩原 宏也		
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-② 道路環境の整備 歩道の延長と幅員の確保により、快適な歩行空間をつくります							係	土木	電話	2527			
	根拠法令等	道路法							個別計画		道路舗装個別施設計画				
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを							法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☒ 都補助等あり)				
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	昭島市道 計画的な市道舗装改修と合わせ、可能な限り車道と歩道の段差解消や勾配緩和、歩道舗装（透水性舗装）の整備、視覚障害者誘導ブロック設置等の検討など、人にやさしい道路づくりを目指す。 主に以下の市道の道路改修工事と橋りょう改修工事を実施した。 昭島6号、9号、23号道路改修工事、昭島27号道路改良工事、庁舎周辺道路歩道改修工事 車道舗装 3, 575㎡、カラー舗装 230㎡、歩道舗装 1, 082㎡、横断防止用柵 74.9m 視覚障害者誘導用シート設置工 3㎡ 北126号橋りょう改修工事（5たみ橋）ひび割れ補修工 1.7m、高欄補修工 5か所、橋面防水工 34㎡、伸縮装置取替工 5m													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	130,516	214,500	172,874	198,600								
	財源内訳	国庫支出金	千円	6,160											
		都支出金	千円	109,420	6,300	13,500	33,000								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
		一般財源	千円	14,936	208,200	159,374	165,600								
	一般職員人件費		千円	37,260	34,024	55,289	56,336								
	人工数		人	4.50	4.00	6.50	6.50								
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	167,776	248,524	228,163	254,936								
	基本施策の現状値											(時点)	R4実績	R5実績	R6実績
歩道の延長距離 総延長79,763m							令和2年度	80,022m	80,104m	80,658m					
歩道の総面積 226,847㎡							令和2年度	227,571㎡	228,511㎡	230,656㎡					
事業の評価	実施方法の妥当性		3	発注時期の平準化を図りつつ、計画的な市道舗装改修に努め、歩道の透水性舗装、横断防止柵や視覚障害者誘導シートの設置を実施した。											
	実施方法の効率性		3	工事内容が年度ごと、路線ごとで異なるため、比較が困難である。そのため、現状維持の横ばいとする。											
	達成度（基本施策の実績）		3	本事業は、現在開通している市道の改修工事であり、基本的に歩道の延長及び総面積の現状値に含まれているため、数値として表せない。											
	DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持											
		総合評価	計画的かつ継続的な市道舗装改修は、市民が安心して暮らせるまちづくりの一環として重要な事業である。令和6年度は、車道舗装と合わせて歩道の透水性舗装や橋りょう改修工事も実施した。今後も、計画的に事業を進めたい。												

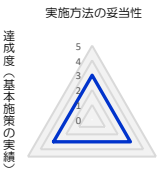
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			管内道路整備事業							事業開廃年度		- 継続			
基本データ	予算科目	款	08	項	02	目	03	細目	002	細々目	01	部	都市整備部	課長	高水 昭利
		款名	土木費									課	管理課	担当	町田 光二
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-② 道路環境の整備 歩道の延長と幅員の確保により、快適な歩行空間をつくります									係	管理係	電話	2528	
	根拠法令等	道路法									個別計画				
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを													
事業の概要	事業概要		対象				目的								
			昭島市道				管内道路の整備により、市道の安全で円滑な通行を確保し、生活環境の向上を図る。								
実施内容		主に以下の市道の道路補修工事（単価契約）を実施した。 ・昭島27号、昭島37号、西523号、南507号 ・車道舗装工：125㎡、歩道舗装工：27㎡、カラー舗装工：236㎡、管きょ工：66.6m、集水柵工：2箇所、視覚障害者誘導用シート設置工：22.8㎡													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算		R6当初予算		R6決算		R7当初予算		備考＜特財名称等＞			
	直接事業費		千円	57,874		20,000		20,000		20,000		【その他特定財源】			
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	48,000		13,000									
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円												
	一般財源		千円	9,874		7,000		20,000		20,000					
	一般職員人件費		千円	12,420		12,759		12,759		13,001					
	人工数		人	1.50		1.50		1.50		1.50					
	再任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	70,294		32,759		32,759		33,001					
	基本施策の現状値										(時点)		R4実績	R5実績	R6実績
歩道の延長距離 総延長79,763m										令和2年度	80,022m	80,104m	80,658m		
歩道の総面積 226,847㎡										令和2年度	227,571㎡	228,511㎡	230,656㎡		
交差点付近の植樹帯・街路樹を整備し、視界を確保します 1箇所（延長16.5m、幅1.25m、面積23.10㎡）										令和2年度末	2箇所 5.1㎡	2箇所 6.0㎡			
事業の評価	実施方法の妥当性		3	市内全域の管内道路を維持管理するためには、柔軟性の高い単価契約にて工事を行うことが妥当と考える。											
	実施方法の効率性		3	年度間での比較が困難であるため、現状維持とする。											
	達成度（基本施策の実績）		3	基本施策の数値は維持管理工事の結果と直結しないことが多いため、達成度を算出することは困難である。											
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務なし					
	個別評価	合計点	今後の方向性												
		9			(前年度 抜本的な見直し) → E 現状を維持										
		総合評価		管内道路の整備は、安全で円滑な通行を確保し、生活環境の向上を図るために重要な事業である。今後も引き続き計画的に事業を進めたい。											

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		都市計画審議会事務										事業開廃年度		昭和62年度 継続		
基本データ	予算科目	款	08	項	03	目	01	細目	003	細々目	01	部	都市計画部	課長	塚本 政	
		款名	土木費										課	都市計画課	担当	土屋 亜衣良
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑤ 市街地の整備 まちなみや景観を美しいと思う市民の割合を増やします										係	都市計画係	電話	内線2262	
	根拠法令等	都市計画法、昭島市都市計画審議会条例										個別計画				
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを										法令による事業 実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)		
事業の概要	事業概要	対象					目的									
	実施内容	市の都市計画 都市計画法第77条の2第1項の規定に基づき設置された昭島市都市計画審議会の運営事務を行なう。審議会は市議会議員5名、学識経験者5名、関係行政機関職員3名及び市民2名の合計15名で構成され、都市計画に関する事項を調査・審議する。 令和6年度は2回の都市計画審議会を開催し、玉川上水南側地区地区計画策定の報告をするとともに、生産緑地地区の変更等の諮問1件について審議を行ない、答申された。														
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算		R6当初予算		R6決算		R7当初予算		備考＜特財名称等＞				
	直接事業費		千円	202		217		120		145						
	財 源 内 訳	国庫支出金	千円													
		都支出金	千円													
		地方債	千円													
		その他特定財源	千円													
		一般財源	千円	202		217		120		145						
	一般職員人件費		千円	2,484		2,552		2,552		2,600						
	人工数		人	0.30		0.30		0.30		0.30						
	再任用職員人件費		千円													
	人工数		人													
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円													
	人工数		人													
	総事業費		千円	2,686		2,769		2,672		2,745						
	基本施策の現状値										(時点)				R4実績	R5実績
昭島のまちなみや景観を「美しいと思う」「やや美しいと思う」市民の割合 57.9%										令和元年度		調査未実施	59.7%	調査未実施		
住み続けたいと思う市民の割合を増やします 昭島市に「今後とも住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」と思う市民の割合 81.8%										令和元年度		調査未実施	85.5%	調査未実施		
事業の評価	実施方法の妥当性		3	法令に基づく事務であり、妥当である。												
	実施方法の効率性		3	令和6年度は都市計画決定等の諮問・報告事項が少なかったため、例年より開催数を減らし、2回の開催とした。												
	達成度（基本施策の実績）		3	令和6年度において数値の捕捉を行っていない。												
	DXへの取組		検討中					AI・RPA導入の可能性		導入済み（一部導入を含む）						
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持												
			総合評価	令和6年度は都市計画審議会を2回開催した。議事録作成にはAI議事録システムを活用し、今年度から開催通知等をメールで行うなど、事務の効率化を図っている。引き続き無駄のない適正な運営を行う。												

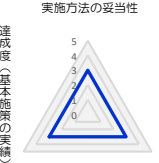
令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		都市計画推進事業										事業開廃年度		令和4年度 継続						
基本データ	予算科目	款	08	項	03	目	01	細目	005	細々目	01	部	都市計画部	課長	塚本 政					
		款名	土木費										課	都市計画課	担当	土屋 亜衣良				
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑤ 市街地の整備 住み続けたいと思う市民の割合を増やします（再掲）										係	都市計画係	電話	内線2262					
	根拠法令等											個別計画								
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを										法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)						
事業の概要	事業概要	対象					目的													
	実施内容	市民、事業者											子どもや若い世代も含めた市民にまちづくりへの関心を持ってもらい、市民や事業者とともにまちづくりを推進する。							
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算		R6当初予算		R6決算		R7当初予算		備考＜特財名称等＞								
	直接事業費		千円	27		59		17		46										
	財源内訳	国庫支出金	千円																	
		都支出金	千円																	
		地方債	千円																	
		その他特定財源	千円																	
		一般財源	千円	27		59		17		46										
	一般職員人件費		千円	2,484		2,552		2,552		2,600										
	人工数		人	0.30		0.30		0.30		0.30										
	再任用職員人件費		千円	463		956		0		0										
	人工数		人	0.10		0.20		0.00		0.00										
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円																	
	人工数		人																	
	総事業費		千円	2,511		2,611		2,569		2,646										
	基本施策の現状値										(時点)					R4実績	R5実績	R6実績		
昭島市に「今後とも住み続けたい」「どちらかという住み続けたい」と思う市民の割合 81.8%										令和元年度	調査未実施	85.50%	調査未実施							
事業の評価	実施方法の妥当性		3	昨年同様、都市計画に興味を持ってもらえるよう子どもたちがゲーム感覚で学ぶことができる内容にした。都市計画やまちづくりへの関心を高めることができたため、妥当である。																
	実施方法の効率性		3	R5、R6は小学生でもわかりやすい内容とするため、職員が講師やファシリテーターとなって実施することで事業費を抑制している。																
	達成度（基本施策の実績）		3	令和6年度において数値の捕捉を行っていない。																
	DXへの取組		予定なし					AI・RPA導入の可能性		該当事務あり										
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持																
			総合評価	令和6年度は、小学4～6年生とその保護者を対象とし、都市計画に関心を持ってもらいたい子育て世代へのアプローチを行った。まちのルール（用途地域等）について説明し、建物の模型を使って自分たちだけのまちをつくり、工夫した点などの発表を行った。カプセルトイの機械を回して出た嫌悪施設や遊興施設を必ず配置することとし、手持ちのコインで好きな建物を入手できるなどゲーム要素を入れたことで楽しく都市計画を学んでもらえ、好評であった。参加申込は市HPからロゴフォームで行い、通知等のやり取りもメールで行うなど、効率化を図っている。																

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		公園維持管理事務								事業開廃年度		- 継続			
基本データ	予算科目	款	08	項	03	目	02	細目	001	細々目	01	部	都市整備部	課長	高水 昭利
		款名	土木費								課	管理課	担当	星野 敏明	
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑤ 市街地の整備 市民一人当たりの公園面積を増やします								係	公園管理係	電話	内線2179		
	根拠法令等	都市公園法、昭島市都市公園条例、施行規則								個別計画					
	SDG's17の目標	 13 気候変動に具体的な対策を								法令による事業実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)			
事業の概要	事業概要	対象				目的									
	実施内容	箇所都市公園、その他宮沢広場及び拝島緑地広場 箇所都市公園、宮沢広場及び拝島緑地広場等の適切な維持管理を行う。 主な業務は清掃、除草、樹木せん定、遊具等の公園施設の維持補修及び整備工事													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考＜特財名称等＞							
	直接事業費		千円	108,596	213,439	171,919	277,769	【都支出金】 ・地域福祉推進区市町村包括補助金 ・市町村総合交付金							
	財源内訳	国庫支出金	千円					【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・公園（電柱電話柱等）使用料 ・新幹線車両改修事業指定寄附金 ・緑化推進基金繰入金 ・庁舎等光熱水費							
		都支出金	千円	6,321	51,350		62,400								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円	24,077	58,242	21,120	54,044								
		一般財源	千円	78,198	103,847	150,799	161,325								
	一般職員人件費		千円	8,280	8,506	8,506	8,667								
		人工数	人	1.00	1.00	1.00	1.00								
	再任用職員人件費		千円	3,241	3,346	3,346	3,962								
		人工数	人	0.70	0.70	0.70	0.70								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
		人工数	人												
	総事業費		千円	116,876	221,945	180,425	286,436								
	基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
市民一人当たりの公園面積 10.84㎡							令和2年度末	10.77㎡	10.75㎡						
事業の評価	実施方法の妥当性		3	現状維持という点では妥当であると考えられるが、維持管理の効率化については、指定管理や管理委託など抜本的な方法についても検討する必要があると考えられる。											
	実施方法の効率性		3	専門技術者による遊具の安全点検を委託にて実施することにより、市内の都市公園等に設置されている遊具の安全性などの状況把握に繋がっている。											
	達成度（基本施策の実績）		3	維持管理については、限られた予算の中で効率的に実施しているが、市民要望は大きくそれを上回っている。											
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性	該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 抜本的な見直し) → C 抜本的な見直し											
			総合評価	公園施設の老朽化が進行しており、故障等により使用不可になっているなどが散見され、市民要望に対しても現状の体制では維持管理が追いついていない現状がある。また、公園樹木についても植樹後30年以上経過し老木化している樹木が多数あり、台風や強風時に倒木の危険性が極めて高い。計画的なせん定、伐採、植替え等が必要であると考えられるが、対象樹木が多数あることから実施には至っていない現状がある。											

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名		児童遊園維持管理事務								事業開廃年度		- 継続			
基本データ	予算科目	款	08	項	02	目	03	細目	002	細々目	01	部	都市整備部	課長	高水 昭利
		款名	土木費								課	管理課	担当	星野 敏明	
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑤ 市街地の整備 市民一人当たりの公園面積を増やします								係	公園管理係	電話	内線 2179		
	根拠法令等	都市公園法、昭島市都市公園条例、施行規則								個別計画					
	SDG's17の目標	 13 気候変動に具体的な対策を								法令による事業実施義務		☒ 義務(☐ 市上乗せあり) ☐ 任意(☐ 都補助等あり)			
事業の概要	事業概要	対象 市内箇所の児童遊園				目的 児童遊園の施設等を良好に維持管理し、来園者に快適に利用してもらう。									
	実施内容	箇所の児童遊園の適切な維持管理。 主な業務は、清掃、除草、樹木せん定及び遊具等の園内施設の維持補修。													
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考<特財名称等>							
	直接事業費		千円	27,220	95,539	86,763	60,386	【都支出金】 ・地域福祉推進区市町村包括補助金 【その他特定財源】 ・行政財産使用料 ・緑化推進基金繰入金							
	財源内訳	国庫支出金	千円												
		都支出金	千円	4,070	4,302		17,150								
		地方債	千円												
		その他特定財源	千円		60,739	38	43								
		一般財源	千円	23,150	30,498	86,725	43,193								
	一般職員人件費		千円	8,280	8,506	8,506	8,667								
	人工数		人	1.00	1.00	1.00	1.00								
	再任用職員人件費		千円	3,241	3,346	3,346	3,962								
	人工数		人	0.70	0.70	0.70	0.70								
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円												
	人工数		人												
	総事業費		千円	35,500	104,045	95,269	69,053								
	基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績				
市民一人当たりの公園面積 10.84㎡							令和2年度末	10.77㎡	10.75㎡						
事業の評価	実施方法の妥当性		3	現状維持という点では妥当であると考えられるが、維持管理の効率化については、指定管理や管理委託など抜本的な方法についても検討する必要があると考えられる。											
	実施方法の効率性		3	専門技術者による遊具の安全点検を委託にて実施することにより、市内の都市公園等に設置されている遊具の安全性などの状況把握に繋がっている。											
	達成度（基本施策の実績）		3	維持管理については、限られた予算の中で効率的に実施しているが、市民要望は大きくそれを上回っている。											
	DXへの取組		予定なし			AI・RPA導入の可能性		該当事務なし							
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 抜本的な見直し) → C 抜本的な見直し											
			総合評価	平成27年度より子育て支援課の担当業務が全て管理課の業務となった。 児童遊園施設は老朽化が激しく、市民要望に対して現状の体制では維持管理が追いついていない状況となっている。 今後は都市公園等と一体的な維持管理も視野に入れ、さらなるコスト改善に向けた検討が必要である。											

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート （令和6年度実施事業）

事務事業名			公害調査・測定等事務								事業開廃年度		－ 継続				
基本データ	予算科目	款	04	項	01	目	05	細目	003	細々目	01	部	環境部	課長	井上 聡		
		款名	衛生費									課	環境課	担当	小沢 岩夫		
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑦ 住環境の保全 <small>市民の健康で快適な生活を守るため、大気環境、水環境、音環境などについての環境基準を全て達成します</small>										係	環境保全係	電話	2298		
	根拠法令等	環境基本法、環境確保条例（都）など										個別計画					
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを															
事業の概要	事業概要	対象					目的										
	実施内容	騒音、振動、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、悪臭防止、地盤沈下、放射能					環境（公害）の調査・測定を実施することにより、公害等による被害の軽減と未然防止に努める。										
事業の実績					・交通騒音の調査：騒音が顕著とみられる10地点各1回で騒音測定（要請限度）及びその他環境省指定区間の6地点各1回で騒音測定を実施（常時監視）。												
					・大気汚染調査：交通量の多い国道16号線小荷田交差点での一酸化炭素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質及び窒素酸化物の定期的な大気モニタリング調査を年2回、瑞雲中学校付近で1回実施。												
					・水質分析：多摩川を3地点各6回、多摩川を除く公共用水域を7地点各2回調査を実施した。また、湧水のうち龍津寺、諏訪神社及び拝島大師の3地点各4回の調査を実施。この他に多摩川底生生物調査2地点各2回、多摩川魚類調査2地点各1回ずつ、工場排水調査を年4回実施。												
	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考＜特財名称等＞									
	直接事業費		千円	9,116	10,462	9,903	11,137	【その他特定財源】 ・工場設置・変更認可申請手数料 ・雇用保険料 ・公文書開示手数料 ・複写機利用料 ・保険返戻金等									
	財源内訳	国庫支出金	千円														
		都支出金	千円	9,052	9,902	9,749	10,686										
		地方債	千円														
		その他特定財源	千円	64	79	44	79										
		一般財源	千円	0	481	110	372										
	一般職員人件費		千円	24,012	24,667	24,667	25,134										
	人工数		人	2.90	2.90	2.90	2.90										
	再任用職員人件費		千円														
	人工数		人														
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円														
人工数		人															
総事業費		千円	33,128	35,129	34,570	36,271											
基本施策の現状値							(時点)	R4実績	R5実績	R6実績							
環境基準							令和2年度	達成	達成	達成							
大気環境：達成							令和2年度	達成	達成	達成							
水環境：達成							令和2年度	達成	達成	達成							
事業の評価	実施方法の妥当性		3	公害の原因となる物質の継続的な測定により、公害の発生を予見し、未然に防止できている。													
	実施方法の効率性		3	令和5年度決算額9,116千円に対し、令和6年度決算額9,903千円で、8.6%の増だった。各調査実施の際は、時期が重ならないよう、計画的・効率的に実施している。													
	達成度（基本施策の実績）		3	公害は、その発生が予見できにくいため、常に監視しておく必要がある。継続的に調査・測定することで公害の発生を予見し、未然に防止することこそが重要である。													
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性	該当事務なし									
	個別評価	合計点 9	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持													
			総合評価	生活環境の現状を把握するため大気測定、河川等の水質調査、交通騒音調査を定期的に実施することで、公害による市民・事業者への大きな影響は無かった。今後も継続して市民の生活環境を注視し、調査結果も踏まえ、必要に応じて適切な指導を実施する。													

令和7年度 事務事業評価（内部評価）シート（令和6年度実施事業）

事務事業名		航空機騒音調査事務										事業開廃年度		昭和38年度 継続							
基本データ	予算科目	款	04	項	01	目	05	細目	003	細々目	01	部	環境部	課長	井上 聡						
		款名	衛生費										課	環境課	担当	小沢 岩夫					
	総合基本計画の体系	6快適で利便性に富んだまち 6-⑦ 住環境の保全 <small>市民の健康で快適な生活を守るため、大気環境、水環境、音環境などについての環境基準を全て達成します</small>										係	環境保全係	電話	2298						
	根拠法令等											個別計画									
	SDG's17の目標	 11 住み続けられるまちづくりを										法令による事業 実施義務		☐ 義務(☐ 市上乗せあり) ☒ 任意(☐ 都補助等あり)							
事業の概要	事業概要	対象					目的														
	実施内容	横田基地を離発着する航空機による騒音 本市は、航空機騒音によって、市民生活や都市整備機能にさまざまな影響を受けており、これらの実態を把握するために実施する。 固定調査を3箇所（東京都設置分を含む）、移動調査を4箇所で行っている。 ・固定調査（常設） ①市役所庁舎屋上（東京都設置）、②拝島第二小学校 ③市民会館・公民館 ・移動調査（3か月ごとに4箇所で開催） ①拝島第三小学校、②市立昭和会館、③玉川会館（市民交流センター工事により）、④旧拝島第四小学校																			
事業の実績	事業費（コスト）の推移		(単位)	R5決算	R6当初予算	R6決算	R7当初予算	備考＜特財名称等＞													
	直接事業費		千円	2,144	1,779	1,653	16,339	特定防衛施設周辺整備 調整交付金													
	財源内訳	国庫支出金	千円				13,100														
		都支出金	千円																		
		地方債	千円																		
		その他特定財源	千円																		
		一般財源	千円	2,144	1,779	1,653	3,239														
	一般職員人件費		千円	4,140	4,253	4,253	4,334														
	人工数		人	0.50	0.50	0.50	0.50														
	再任用職員人件費		千円																		
	人工数		人																		
	再任用代替会計年度任用職員人件費		千円																		
	人工数		人																		
	総事業費		千円	6,284	6,032	5,906	20,673														
	基本施策の現状値														(時点)	R4実績	R5実績	R6実績			
環境基準 準環境 : 達成							令和2年度	未達成	達成	達成											
事業の評価	実施方法の妥当性		3	現在の実施方法を継続することで、航空機騒音の推移が経年的に把握することができる																	
	実施方法の効率性		4	令和5年度決算額2,144千円に対し、令和6年度決算額1,653千円で、▲22.9%の減だった。固定調査（常設）箇所（3箇所：都設置2箇所、市設置2箇所）の他、移動調査箇所（四半期に1度移動）で測定し、移動調査箇所に関しては、市民交流センターの工事中は代わりに玉川会館を移動調査箇所としている。限られた予算及び人員の中で効率的かつ効果的な運用に努めている。																	
	達成度（基本施策の実績）		3	市民生活や都市整備機能にさまざまな影響を受けている本市では、航空機騒音の測定及び収集や調査結果の公表は、重要であり、それを継続的に実施できているため達成度は高い。																	
	DXへの取組		予定なし				AI・RPA導入の可能性	該当事務なし													
	個別評価	合計点 10	今後の方向性	(前年度 現状を維持) → E 現状を維持																	
		総合評価	航空機の飛行ルートの変更等を適切に把握するため、令和3年度に市民会館・公民館に固定調査用の騒音測定機を新たに整備した。令和4年度には、騒音集計処理システムの更新を行い、騒音測定的器等を必要に応じて更新を図るなど、継続的に安定した騒音測定が可能な状態にしている。今後も継続的に航空機騒音調査を実施し、生活環境の向上に取り組んでいく。																		